

熊建労 震災ニュース

2026 年（令和 8 年）熊本地震 特別号

2026 年 8 月 25 日(火) 第 6 号
発行 中本稔教宣部長
TEL096-234-8805

「今も水が出ない」

― 発災から約 1 カ月、続く不便と不安 ―

8 月 23 日（日）、宇城支部と八代支部の組合員宅を訪問し、被災状況や現在の困りごとを聞き取りました。

これまで通行止めとな

っていた道路の一部も通行できるようになり、前は、たどり着くことのできなかった仲間のもと

しは水が出るようになった。でも、お風呂に入れるほどではないので、今も入りに行っている」と話しました。

別の組合員からは「水が今も出ない。トイレに使う水は近くに水源があるので、そこまで汲みに行って使っている。お風呂は入りに行っている。ガスと電気が使えるだけまだいいが」との声が聞かれました。

これまでの訪問でも「水が一番助かる」「夕方から

朝方まで断水するので困っている」など、水をめぐり切実な声が繰り返し寄せられてきました。

地震から時間がたっても、飲み水だけでなく、ト



「熊建労です」と伝えると安心した表情に

あるお宅では、組合員のお孫さんと話していると、娘さんが「車が入って来て、人がたくさんいるので、何ですか？」と様子を見に来られました。熊建労だと伝えると、「最近、外国人とかも車でま

わって来たりしているの……」と、不安に感じていたことを話してくださいました。

そ、直接訪ねて顔を見せ、話を聞くことにも大きな意味があります。

電話だけでは分からない暮らしの実情があります。熊建労はこれからも仲間のもとへ足を運び、復旧・生活再建まで寄り添った支援を続けていきます。



「手を貸してほしい」の声に応えて

2軒の仲間宅で片付けボランティア

8月16日に行った災害ボランティアで、訪問した仲間から寄せられた「手を貸してほしい」という要望を受け、8月23日(日)の災害ボランティアでは、2軒の組合員宅で片付け作業を行いました。

八代市鏡町では、「電気と水道は復旧したものの、片付けが大変」と声を上げた仲間のもとへ、各支部から集まった8人のボランティアが支援に入りました。被災したのは、作業場としても使っていた小

曜日ということもあり長蛇の列。現地では、荷下ろしの作業時間よりも、順番を待つ時間の方が長くなるほどでした。



具体的な支援につなげたものです。

作業後には、支援に入った仲間へ「お世話になりました」と連絡も寄せられました。

訪ねて、話を聞き、必要なときには実際に手を貸す。

仲間同士のつながりから生まれた今回の災害支援は、被災した仲間を支えると同時に、あら

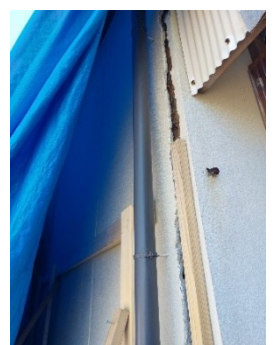
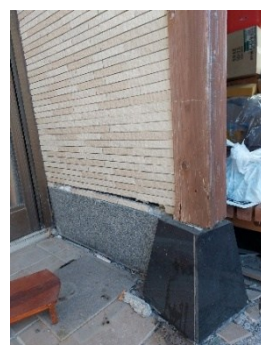
ためて「組合だからできること」「組合がある意味」を感じる取り組みとなりました。

復旧・復興までの道のりの長さを感じる支援活動となりました。

訪問でも、住宅の片付けや水の確保など、それぞれの暮らしに応じた支援の必要性が見えていました。

当初の依頼は、「壁にサイディングを張りた

いが、一人では持ち上げ



「やっとぐっすり眠れました」

少しずつ日常を取り戻している仲間も

今日は10年ぶり(2018年熊本地震)の組合 訪問した時間は9時35

分頃でしたが、「今、まさ
状況聞き取り調査等のお
に起きてきました」の状
手伝いをさせて頂き、感
況が見て取れ、快眠中に
慨深いものがありまし
起こしてしまい申し訳
た。ありがとうございます
た。

「今日はやっと、ぐっ
すり眠れました」「水ら
こそ、また、若いから
で身体を洗わなくて良
寝る体力があるからゆ
くなったんで…水も出
つくりと睡眠されてい
るし電気も使えるから
るのだと…(歳をとると
だいぶ落ち着いてきま
早起きになります)訪
した」とお話しくださっ
問時間に配慮が必要か



なと感じたのでした。

最後になりましたが、

今日、ご一緒いただきま
した皆様、お疲れ様でし
た。そして、ありがとう
ございました。

【城北支部 野田ゆみ】



全国の
なかまの
みなさんへ

これまで、全国の県連・組合から飲料水や食料品、日用品など、たくさんの支援物資を届けて
いただいています。被災した仲間からも「本当に助かる」「ありがたい」と、多くの感謝の声が寄せられています。
置き配などで送り主を確認できていない支援物資もあり、お礼をお伝えできていないものもあります。一つひとつが被災
した仲間を支える大きな力になっています。全国の仲間みなさんの温かいお気持ちに、心より感謝申し上げます。